

感染症から生まれる差別・偏見を

どうなくしていくかを考える朝会をおこないました

新型コロナウイルス感染症の影響が続く中、学校を含めた日常の生活にも、一部に制限があったり、新しい工夫が求められたりする状況が続いております。

今までとは違う生活形式に変化していく中で、感染症に対する不安や感染者などへの差別・偏見などが社会問題となっているのも事実です。

学校でも、感染予防を続けていきますが、新型コロナウイルス感染症には誰もがかかる可能性があることを前提に、身近な誰かが感染してしまったことを考慮した対応も必要となってきています。

そこで今回、日本赤十字社監修の「新型コロナウイルスがもたらす3つの”感染症”」の考え方をもとに、新型コロナウイルス感染症に関する差別・偏見について考える朝会を実施しました。



感染症から差別や偏見が生まれる理由



人は目に見えないウイルスに対する不安やおそれを、目に見えるものにすり替えます。

感染症にかかった人や、特定の地域・職業の人など、実際に目に見える感染症を連想させる人や場所などを避けたり遠ざけたりする気持ちや行動が「差別や偏見」につながっています。

目では見えないウイルスに対する
不安やおそれ



感染症にかかった人、その家族 地域や学校 を
“敵” とみなして 嫌悪の対象とする

嫌悪の対象を差別して遠ざけることで
つかの間の安心感を得る

新型コロナウイルスを含め、感染症は誰でもかかる可能性があります。

たたくべき相手は人ではなくウイルスです。感染症への正しい理解と思いやりの心で不安な気持ちを乗り越えましょう。



ご家庭でもご協力をお願いします。

新型コロナウイルスのニュースを見ながら、「感染者が多い地域から来ないでほしい。」
「あそこの地域で、コロナになった人がでたらしい。怖いよね。」など何気なく発した言葉を
子どもたちは聞いています。

この感染症に対する大人たちの反応は、子どもたちの受け止め方にも大きく影響します。学校でも、今回の朝会をはじめ継続して指導していきますが、ご家庭でも子どもたちが感染症への正しい理解のもとに適切に行動できるよう、ご協力よろしく願いいたします。